巻頭言集

今、みなさんに伝えたい事

2020

学年通信とは

吉祥では、学年通信を学年ごとに発行しています。発行時期は、年度始めや終わり、長期休暇に入る前、行事の前後などさまざまです。学年通信では、生徒達の学校生活における活躍の様子、写真や感想、学級日誌の生徒コメント、またその時々に必要な情報を提供しています。また、学年通信の巻頭言では、学年主任がそれぞれの時期に、それぞれの学年の生徒達へのメッセージを載せています。

この巻頭言集は、2019 年度学年通信の中から一部を抜粋したものです。

4
April

高３になりました

高３学年主任
山根　晶子

新元号発表の日、私は職員室で管官房長官が額縁を持って現れるのを待っていました。大きな変化を迎えて日本中がお祭りムードになっていましたね。そして心躍る新学期をスタートさせたわけですが、皆さんの様子を見ていると、わりと落ち着いて学校生活を送っているようで頼もしい限りです。

進級してみてわかったと思いますが、高３になったからといって何かが劇的に変わるわけではありません。教室と、クラスのメンバーと、担任が変わるぐらいのものです。受験生だからといって特別扱いされるわけでもありませんし、無理して急にあれこれやろうとする必要もありません。とはいえ受験生になったので、やっぱり受験の話を少し。

受験はよく山登りに例えられます。だいぶ前から登り始めている大多数の人は、今まで通り地道にコツコツと登っていきましょう。まだ登り始めていない人は、出遅れた分をどう取り戻すか戦略を立てなければいけません。最短コースを一気に駆け上ろうと考えている人は、息切れしないだけの体力（学力）があるかどうか見極めてください。なるべく傾斜の緩いところを選んで登るつ

もりの人は、ゴールまでの道のりとペース配分をしっかり計算してください。途中でコース変更をする人や、登る山（進路）を変える人もいるかもしれません。誰かの助け無しには登れない人もいるでしょう。いずれにせよ、山登りで一番頼りになるのは一緒に登る仲間です。林間学校の登山で実証済みですね。みんなで励まし合い、助け合いながら、ぜひ、自分にとっての最高峰を目指してください。ちなみに私が 20 年ほど前に林間学校で富士山に登ったとき、あまりにも登るのが遅すぎて置いていかれ、やっと頂上についたときには生徒の皆さんはとっくに下山していたというお粗末な経験があります。ただこのとき見た日本で一番高いところからの景色は、登った人にしか見られない素晴らしいものでした。重力に逆らうのは大変ですが、苦労してでも登る価値はあります。本当の登山ではお役に立てませんが、受験に関しては最大限のサポートをし、皆さんが山頂からの景色を楽しめる日が来るよう応援していきますね。

【保護者の皆様へ】

４月８日の中学入学式、入場してくる中１と５年前の中１がオーバーラップして、少し視界がぼやけました。吉祥で過ごす最後の一年が、お嬢様方にとってかけがえのない一年となりますよう支えていく所存です。受験生であっても気負わず甘えず、粛々と学校生活を送れるよう、身だしなみや清掃、遅刻の指導などもこれまで通りに行ってまいりますので、どうぞご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

自分の魂と向き合う

中３学年主任
高野　弘

月日がたつのは速いもので、皆さんが吉祥女子中学に入学してから、はや２年以上がたちました。今では、皆さんは中学の最高学年です。

５月８日の放課後に、クラブ集会が行われました。それぞれのクラブで、多かれ少なかれ新入生を迎えたことと思います。ぜひ、入学したばかりの中学１年生や、もうすでに１年間一緒に学校生活を送ってきた中学２年生を良い方向に導ける立派な上級生になってほしいと思います。

４月８日の入学式では、皆さんの代表として SY さんに「歓迎のことば」を述べてもらいました。その結びの部分で SY さんは、「ようこそ吉祥女子中学校へ。ここは皆さんのための場所です。私たち在校生は皆さんを心から歓迎します。皆さんとかけがえのない時間を共有できることを嬉しく思います」と入学生たちに語りかけていました。とても素晴らしい言葉です。不安や希望がない交ぜになっている新入生の気持ちに、しっかりと寄りそっていました。

皆さんには、ぜひ新入生を歓迎している姿勢を常に示してほしいと思います。そのため、まず自分から新入生にあいさつしてください。上級生になると、下級生が先にあいさつしてくるのを待ってしまう傾向があるようですが、それは間違いです。なぜなら、あいさつの価値はされる側にあるのではなく、する側にあるからです。

あいさつは、相互理解の入り口です。誰かにあいさつするのは、その相手と理解し合えると考えるからです。逆にあいさつしないのは、はじめから相互理解を拒否していることとも言えます。人には誰とでも互いに理解し合える可能性があるという意味で、誰にでもあいさつされる価値があるはずです。一方、自ら進んであいさつすることは、お互いに理解し合える可能性を広げる行為です。だから、価値があります。先輩方や先生方・保護者、同級生だけでなく、下級生に対しても、分け隔てなくあいさつできるようになりましょう。

翌４月９日の新入生歓迎会では、SH さんが中学生徒会長として「皆さんに伝えたいのは、冷めたふりをしすぎると熱くなれない」と、新入生に語りかけていました。そして、上級生にも「皆さんは新入生の皆さんをやさしく見守ってあげてください」と呼びかけていました。そのとおりだと思います。

何かに情熱を傾けている人の姿には、否定し得ない魅力があります。皆さんが入学した頃の先輩方の姿を思い浮かべてみてください。皆さんが憧れていた先輩は、きっと何か打ち込んでいたはずです。そして、皆さんをきっとポジティブな方向へと導いていたはずです。これからは、今度は皆さんの番です。自分が情熱を傾けられるものを見つけ、それに全力で挑んでみてください。SH さんの言うとおり「冷めたふり」は禁物です。熱くならないと、誰も動きません。自分でさえも。何かに情熱を注ぎ込めれば、自分にも周りの人々にもポジティブな影響が表れるのは、間違いないと思います。

さて、今回の学年通信からは新しいコーナーとして、「みんなのフォーラム」を始めました。初回のテーマは「読書のすすめ」です。そこで、ぼくも少し読書について語ってみたいと思います。

ぼくは、読書が好きです。理由をひと言でいうと、読書は一人で行う行為であり、ぼくは一人でいることが好きだからです。ぼくは電車の中や飲食店といった、ザワザワとした雑踏の中でも本が読めます。本を読み出すと、まわりの雑音は消えてなくなり、本の世界に没頭できます。まわりと関わる面倒くささが消えて、気持ちが安らぎます。

人間の言語活動の中でも、聞く・話すといった、いわゆるオーラル・コミュニケーションには相手が必要です。相手の感情や表情を読みながら、その場その場で言葉を選び、身振り手振りを交えて適切に対応することが求められます。こうした能力は現代人に欠かせない力と考えられていますが、残念なことにぼくはそれがとても苦手です（何とか克服しようと努めてはいますが…）。一方、読む・書くといった、いわゆるリテラシー（読み書き能力）に関わる行為は、本質的に孤独な作業です。

読書は著者との対話とも捉えられるのですが、いにしえの作家たちはその著作に対するぼくの問いに答えてはくれません。現代の作家も同じですよね。たとえば人気作家の村上春樹さんに、最新刊の『騎士団長殺し』について、「スバル・フォレスターの男」のエピソードはどんな意味なのかとメールで尋ねてみても、きっと返信は来ないと思います。作家が書いた文章から何を読み取るかは、結局自分しだいです。こんなしゃれた言い方は本来ぼくの性にはあいませんが、読書はどこか「自分の魂に向き合う作業」に似ています。

書くことも、同じです。どんな簡単な出来事でも、いざ書くとなると思いのほか難しいものです。書くことを通じて、自分の知性のあり方が思い知らされます。やっかいなことに、デジタル化した現代の叙述活動は、どうしても他者の評価と一体化しています。たとえば、ぼくらは毎日の日記でさえ他人に公開し、フォロワー数を増やしたり、「いいね！」の数を増やそうと躍起になります。

しかし、書く行為は、本来自己完結でいいのではないかと思います。いにしえの作家たちの著作の中には、公開を前提とせず、自らのために文をしたためたものが多いようです。その代表例が、古代ローマ帝国の皇帝マルクス・アウレリウスが書いた『自省録』です。彼は自分自身に向けて、自らの生き方を戒める短文を数多く残しています。たとえば、以下のような文です（文中の「君」は、おそらく自分のことです）。

せいぜい自分に恥をかかせたらいいだろう。恥をかかせたらいいだろう、私の魂よ。自分を大事にする時などもうないのだ。めいめいの一生は短い。君の人生はもうほとんど終りに近づいているのに、君は自己にたいして尊敬をはらわず、君の幸福を他人の魂の中におくようなことをしているのだ。（マルクス・アウレリウス著、神谷美恵子訳『自省録』岩波文庫より）

自分の魂と向き合う作家と、それを読むことを通じて自分の魂と向き合う読者がいて読書が成り立ちます。読書を通じてそれぞれが自分に向き合い、孤独を楽しみ、自己を探求することで、他者に惑わされず、自分を尊敬する道にいたります。

自分の進路は、自分自身を掘り起こすことでしか見つかりません。皆さんも、読書などを通じて自らの進むべき道を見つけ、それに情熱を注ぎ込んでみてください。

7
July

視野を広げよう

高１学年主任
山田　成香

小雨が降り続く梅雨寒の中、７月１１日から３日間、球技大会が開催されました。上級生を相手にひるむことなく果敢に反撃する姿や、高い壁に阻まれて涙を流す姿、大会運営に尽力した体育部員と運動クラブ員たち、たくさんの青春がひしめき合う試合会場は、一足先に梅雨明けしたかのような熱気に包まれていました。特に失敗してへこむ仲間を励まし、互いを思いやって戦い、チーム力を高めていく様に感動しました。今年もたくさんの勇姿を間近で応援できたことに幸せを感じます。

今年から iPad 導入や企業インターンワークへの取り組みが新たに加わりました。１６日のプレゼンテーションを見てくださった３名の企業の方は、ホームページの企業理念をよく読みこんで分析していること、年代別のアンケートの取り方、その考察から提案までしっかりしていることに驚かれていました。アンケートに協力して下さったたくさんの方々に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。皆さんも短時間の準備は慌ただしく大変だったでしょう。これからもチームで連携をとってこの取り組みを深めていってほしいと思います。

　さて、大学入試のしくみの説明を皮切りに、卒業生講演会、芸術系及び学部学科レポートの説明等、進路行事が続きました。じわりじわりと広がる世界に比例して、文理芸系の選択の迷いも高まったことでしょう。そのような状況の中で４名の卒業生が講演会で話した内容はどれも心強く、今までの固定観念を緩めてくれたように思います。そんな彼女たちの共通点は、自分の人生や仕事に誇りをもっていること。その誇りの原動力になっているのは、一心不乱に取り組んだ経験があることです。辛い時期を通り過ぎると不思議なくらい世界が広がっているものです。何事もすぐに結果を求めず継続してください。

　私自身は、「私立でどうせ学費がかかるなら好きなことしたら」と、娘に言い放った肝っ玉母さんに脱帽でした。こんなパンチの利いた心強い一言を投げられたら、破竹の勢いでどこまでも伸びていけそうです。娘は幸せ者ですね。

　今年の夏休みは、校内の活動以外にも大学のオープンキャンパス、オーストラリアセミナー、外部団体の語学研修等、盛りだくさんのようです。特に海外研修はホームステイ、語学研修の枠に留まらず、社会問題や人権問題を学ぶ等のテーマをもって滞在する人も出てきました。まとまった時間があるこの時期だからこそ広い世界を体験して、２学期には仲間にもたくさん話を聞かせてください。８月３１日にはさらに大きく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。くれぐれも iPad にスマートフォン

という便利な道具に使われて、大切な時間そして自分の将来を棒にふらないようにしてください。

最後に、１年留学に出発する皆さん、身体に気をつけて新しい挑戦を楽しんでください。合言葉は「せっかくだから！」ですね。実り多き一年になるよう祈っています。いってらっしゃい！

「はたらく」を考える

中２学年主任
佐藤　映子

人はなぜ「はたらく」のでしょうか。

「生活のため」、「お金を稼ぐため」といった答えをまず思いつくかと思います。それは当然大切なことで、子どもだった人が大人として独立した生活をするということは、生活能力を持っていることに加えて経済的にも親から自立していることも含みます。住むところを確保し、食べ物や洋服を購入するにも金銭が必要です。すべての必需品を自給自足で生きていくことは、現代の東京近郊においては想像しにくいことです。

けれどももし「ユートピア」ともいうべき世界があって、だれも生活のために働く必要がなく欲しいものはすべて手に入るとしたら…、人は「はたらく」ことをしないのでしょうか。

多くの人はそのような世界があったらいいなあと想像するかも知れません。人は楽なことが好きです。でも実際には、人は「は

たらく」ことを選ぶと思います。なぜならば「はたらく」には、その意義があるからです。

　私自身にとっての意義を考えてみたところ、二つのことがすぐ思い浮かびました。一つは、自分の専門を持つ喜びです。職業にはそれぞれ特徴があり、私の場合は「教育」と「英語」です。まだまだ学ぶべきことは沢山ありますが、この職業に就いていることは私には喜びです。「ユートピア」でのんびり過ごす人生より、こちらのほうが何倍も充実していることは間違いありません。昨

年、若い頃の仲間と同窓会を開きました。皆、様々な「職業」で活躍している仲間の表情は生き生きして、「私も頑張ろう！」と勇気を与えてくれました。

　もう一つは、周りの人たちとのつながりです。吉祥では学校に来る多くの人たちと関わり、また先生方や皆さんや保護者の方々に色々な形で助けて頂いてこそ、私の「はたらく」は成り立っています。（今学期は特にこのことで特に感謝の気持ちでいっぱいです。）「つながり」があるからこそ、私は日々、自分の「はたらく」と向き合うことができるのだと思います。

　「はたらく」には色々な形があります。職業を通じたもの、地域などでのボランティア活動を通じたものがそうですし、あるいは家族に大きく貢献する子育てや介護も含まれるかと思います。「はたらく」の意義も人それぞれだと思います。というより、「はたらく」の意義は自分で見つけていくからこそ良いのでしょう。

この夏、ボランティア活動、林間学校などでの活動を通じて、様々な出会いや「はたらく」に関する発見が皆さんにありますように。そして将来「社会に貢献する自立した女性」を目指す皆さんが、少しでも「はたらく」の楽しさを知ってくれたら嬉しいと思います。二学期にまた元気にお会いしましょうね！

10
October

責任を全うした
充実感・仲間への感謝

高２学年主任
塩澤 知美

次々と襲来する台風・豪雨によって、例年になく自然の脅威を実感させられた秋となりました。金木犀の香りや街路樹の色付きに気づいても、いつものようには喜べない日々が続いています。
吉祥祭・運動会という大きな行事が終わりましたが、抜け殻状態

からは意外に早く抜け出したという印象を受けています。この 2 大行事では、全体に対する責任を果たすべく努力し、新しいことにも積極的に挑戦する皆さんの姿を見ることができました。より一層の生徒自身の手による運営を目指し、吉祥祭では教員が行う審査の回数を減らし、運動会については事前の体育の授業内で運動会当日の動きに即した確認をするように変更しました。中学の担任からは、「準備日にクラスに関われる時間が増えた」「運動会でクラスの生徒の応援ができてよかった」という声をもらっています。皆さんの負担は増えたかもしれませんが、その分充実感も得られたはずです。任せれば期待にきちんと応えてくれる生徒であることを、我々教員も実感することができました。行事を仕切ったリーダーたちから、責任を全うした充実感だけでなく仲間たちへの感謝の言葉が聞かれたことも大きな喜びです。この経験を活かし、後輩たちへの引き継ぎをしっかり行って下さい。

　さて、いよいよ次年度へ向けて選択科目を絞る時期になりました。そのためには具体的に受験する学部や大学を調べなければなりません。消去法で選択することのないように、担任・保護者の方ともよく相談して進めてほしい。部・クラブ活動を続ける人たちには焦る気持ちがあるかもしれませんが、大切なことは 1 時間 1 時間の授業を大切にすることです。忙しい人たちほど時間の使い方に工夫が必要。貪欲に授業に臨むことを忘れないでほしい。10 月 26 日（土）に行われた卒業生座談会では、「隙間時間の有効利用」という言葉が繰り返し先輩たちから聞かれました。授業で分からなかったことはその日のうちに解決する。休み時間の 10 分・バスに乗っている 15 分も充分勉強に使える。仲間同士で教え合い、勉強するのが当たり前という雰囲気を作っていきたい。良い雰囲気ができたクラスは全体が伸びていきます。掃除も疎かにしない。教室を綺麗に保つ事で気持ちも落ち着きます。集中できる環境を作りましょう。

【保護者の皆様へ】

　お嬢様方のいつもにも増して行事で活躍する姿はご覧頂けたでしょうか。個人よりも全体を優先することが求められますので、ご心配もあったことと思います。行事を一緒に乗り越えた仲間との絆は必ず今後の支えになっていきます。温かく見守っていただければ幸いです。

12
December

成就しない思いは生き続ける

高１学年主任
山田　成香

　この季節になると柿の木に５つ６つの実が残っている光景を目にします。これは食料の乏しい冬を過ごす鳥たちのために残すところから、別名お布施柿と呼ばれます。お布施柿の存在を知ってからというもの、柿の実がしっかり残されているかが気になって

しかたありません。

　さて、二大行事を境に引き継ぎが始まりました。すでに新体制で活動を始めている人たちもいます。先輩から受け取ったバトンの重みを実感していることでしょう。その立場になって初めて見えてくることがたくさんあります。難しい局面に立たされるたび、先輩たちならどう考えるのかと思いを巡らすことでしょう。引退しても支え続けてくれる頼もしい存在です。

　２学期は「選択」の学期でもありました。進路が決まっていない人にとっては、自分自身と向き合う貴重な時間となったようです。時折、進路が決まっている人をうらやむ声も聞かれましたが、揺るぎない進路であってもその道を進む過程では必ず迷いが生じるものです。そのときに「自分で決めた」という強い意志を持っているかいないかでは、その後の人生が大きく変わってきます。なぜなら人から言われて決めている人は、往々にして迷いが生じたり失敗したりすると、その責任を周囲に転嫁しがちです。これではいつまでも成長することができません。しかし自分で納得したうえで決めたことであれば、それらの経験を積み重ねて、もっと大事なことへ挑戦するエネルギーに転嫁していくことができます。だからこそ自分の進路は自分で決めるべきなのです。一度きりの自分の人生に責任を持つべきなのです。

先月、１０年ぶりに卒業生が訪ねてきました。現在は某大手企業でバリバリ働いていると近況を聞きながら安堵したのも束の間、急に「本当にやりたいことは絵をかくこと。今でもその思いは変わらない」と一気に話し始めました。学生時代に周囲から反対され断念したこと、働きながら絵の勉強をするために学費を貯めたこと、理解してもらえない親と疎遠になったことなど２時間近く話をしたでしょうか。話すだけ話した後、「実は背中を押してほしくてここにきました」と言うのです。すでに彼女の意志は決まっていて最後の一押しがほしかったようです。本人が「やりきった」という実感を持たない限り、一生絵を描きたいという思いは尾を引き、後悔することでしょう。「１０年以内には必ず吉報を届ける」と約束して帰っていきました。そこまで夢中になれることがある幸せと、チャレンジできる若さがとてもまぶしく感じました。もちろん絵を生業にできることを願いますが、この先どのような道に進むことになったとしても、会社で働いた経験が活かされることはたくさんあるはずです。遠回りに思えるこの時間は彼女が幸せな人生を送るために必要な時間だったと思います。

最後になりますが、２０２０年は東京オリンピックの年。この学年が学校の大黒柱となる年です。強い気持ちで挑み飛躍の年になるように、自覚と覚悟をもっていきましょう。１月７日の始業式でお目にかかれることを楽しみにしています。穏やかな新年をお迎えください。

3
March

今を生きる、明日を生きる

中３学年主任
高野　弘

皆さんの中学校生活も、いよいよあと１ヵ月あまりで終わります。ぜひ有終の美を飾って、すがすがしく中学校を卒業してほしいと思います。そのため、友人や先生方に対するあいさつ、始業時までの着席、授業に対する前向きな姿勢、課題の期限内の提出などに対する自らの姿勢をもう一度問い直してください。これらは学年の先生方からずっと言われ続けた、当たり前のことだと思いますが、当たり前のことが当たり前にできることが大切なのです。

最後の合唱コンクールも近づいてきました。きっと練習にも熱が入ってきていると思います。40 人もの人が声をそろえて歌うことは、なかなかに難しい作業です。中１・中２の時は練習やコンクールに対する思いの違いから、感情的に対立し、傷つけ合ってしまったこともあったことと思います。今でも感情的な対立が生じるのは変わらないのでしょうが、今までよりは相手の立場を尊重しながら発言することができるようになったのではないでしょうか。みんなで練習できるのはあとわずか３日間ですが、互いに対する敬意は忘れずに練習に励み、本番では各クラスの個性を生かした素晴らしいハーモニーを響かせてくれることを期待し

ています。

　さて、中学卒業の日が近づいてくるなか、皆さんの頭の中には高校３年間をどのように過ごすべきかについて、シナリオみたいなものはあるのでしょうか。２月 26 日（水）のＬＨＲでは「３年後の私への手紙」という進路学習の取り組みを行います。高校を卒業しようとしている自分の姿を想像し、その時の自分に宛てた手紙を書いてもらいます。そして、その手紙をそのまま厳封し、高校卒業時に皆さんにお渡ししようと考えています。その手紙を書くためにも、ぜひ高校３年間の詳細なシナリオを頭の中に思い描いてみてください。そして、今からそのシナリオに従って、役者のように生きてみてください。

　突然「役者のように生きろ」と言われ、面食らった人もいるかもしれません。「役者のように生きる」とはどういうことか、これから簡単にお話しします。その元ネタは福田恆存による『人間・この劇的なるもの』（新潮社）という評論です。福田恆存はシェークスピアの翻訳家として知られ、また劇団を主宰する脚本家・演出家としても活躍した人です。幸福論や人生論に関する著作も多く、この本はその中の一冊です。そこでは「劇的な人間存在」をキーワードに、自由や個性、幸福について論じています。その中で、劇と時間の関係、そして役者のあり方について論じた部分がとても印象に残っています。その論旨は、だいたい次のとおりです。

舞台の上ではすべてが二重性において進行する。見物人の前には現在しか存在しない。その現在はつぎつぎに過ぎ去るが、それは決して過去にならない。次々と眼前に現れる現在のうちに含まれている。

未来についても同じである。未来は、未来の側からやってきてはならない。常に現在がどんな未来にも到達しうる形で私たちの眼前に存在しなければならない。

劇においては、常に現在が躍動しながら、時間の進行にともない、過去と未来を同時に明らかにしていく。現在のうちにすべてがある。

役者のせりふは脚本で決まっている。つまり、未来は決まっている。未来は決まっているのに、役者は未来からではなく、現在から未来を引き出さなければならない。「かれ（役者）はいま舞台を横切ろうとする。途中で泉に気づく。かれはそれに近づいて水を飲む。このばあい、気づく瞬間が大切だ。泉が気づかせてはならない。かれが気づくのだ。かれが気づく瞬間までは、泉は存在してはならないのである。すでに決定されている行動やせりふを、役者は、生まれてはじめてのことのように、新鮮に行い、新鮮に語らねばならぬ。…（中略）…そのためには、役者は、未来に眼を向けてはならぬ。現在を未来に仕えさせてはならぬ。かれは現在にのみ没頭する。芝居の最後まで知っていて、しかも知らぬかのように行動すること。」

役者は未来を知り得ないものと捉え、過去を戻らないものと捉えるため、現在をどん欲に飲み干そうとする。そこに役者の二重性がある。（要約の途中の「　　」内は原文をそのまま引用しました）

つまり、「役者のように生きる」ということは、「今この瞬間をどん欲に生きる」ということだと言えそうです。

ぼくは人の生き方には、今を生きる生き方と明日を生きる生き方があると思います。明日を生きる生き方とは、将来に対して何かの目標を立ててそれに向かって一つ一つ課題を解決しながら生

きる生き方です。一方、今を生きる生き方は、明日はどうなるかわからないけど、とりあえず今この瞬間を大切にして、今日のこの一日を充実させようとする生き方です。そして、どちらの生き方も大切だとぼくは思います。

　ぼくらは、自分の未来に対して何らかのシナリオをつくりながら生きています。自分の身に降りかかるすべてのことに対してアドリブで生きているという人は、そう多くないはずです。あらゆる出来事に対してノープランかつ即興・即決で対応できる人がいるとしたら、その人は前人未踏の道を歩むか、破滅的な道を歩むかのどちらかです。常人のぼくらは何年後かの自分を思い描きながらシナリオを書き、シナリオ通りになるよう懸命に役を演じます。そうやって明日を生きる一方、不慮の出来事に苦しみ、思い通りにいかない現実に対応しつつ、シナリオを書き直しながら生きていきます。そのシナリオに従って生きるときに大切なのが「今を生きる」ことだと思います。

　どんなに素晴らしいシナリオがあっても、今この一瞬が充実していなければ、次の瞬間に訪れる出来事に感動することはできません。ですから、まずは今日この一日を大切にしましょう。日常生活の中でおこるさまざまな出来事に対して、自分らしく精一杯の力で演じられれば、どんなシナリオでも素晴らしい劇にできあがっていくはずです。

　中学校生活の最後の日々は、明日を見ながら今日のために生きてほしいと思います。

一日一日を大切に

高２学年主任
塩澤 知美

例年と変わることなく桜の開花の便りがあり、夜明けの時間が徐々に早くなっているのもいつも通りの春なのに、生徒のいないあまりにも静かな校舎に入るとその異常さが実感され、１ヶ月が経とうとする今も慣れることができません。そのような中でも３月 16 日には 258 名の卒業生が巣立っていきました。式の中で在校生総代の言葉を贈ることはできませんでしたが、卒業生への感謝をとても丁寧に表現してくれたもので、活字にして伝えることになっています。卒業生総代の答辞は力強く立派でしたが、何とも言えない寂しさが伝わるものでした。そして退場する際に最後に贈る吹奏楽部のあの演奏が、旅立ちに当たって卒業生の背中を明るく押すものだったということにも改めて気づかされました。吹奏楽部の皆さんも、心を込めて演奏したかったことでしょう。精一杯の拍手を贈りましたがやはり切なさが残ります。最後の登校日に慌てて作った高２からの卒業生へのメッセージ動画は無事に全クラスで見てもらうことができ、「感動しました。後輩たちにありがとうと伝えて下さい。」とわざわざお礼の挨拶に来てくれた生徒もいました。卒業生たちの幸せを心から祈ります。

さて、学校の中心学年としての１年が終わりました。体調管理

に悩み勉強面で苦労する姿も見られました。先を見通し、誠実に実行していくことの難しさも実感したことでしょう。一方で行事に取り組む中で仲間に支えられていることに気づき、充実感も味わえたことと思います。
２学期には初めての取り組みとして模擬国連にも挑戦しましたので、自分のことだけでなく国や世界の動きにも目を向けられるようになったのではないでしょうか。新型コロナウイルスの問題が突きつけてきたのは、我々人間のあり方に他なりません。耳を疑うような詐欺やデマについての報道がなされていますが、弱い命を如何にして守るのか、想定外のことに対してどう柔軟に対応するのか、国を超えて一人ひとりが向き合わなければならないことでしょう。クラブ活動もない今、受験勉強だけでなく問題意識をもって読書や情報収集を行い思考を深めてもらいたいと思います。どうか、一日一日を大切に過ごして下さい。

【保護者の皆様へ】
１年間温かく見守って下さりありがとうございました。さまざまな行事で生徒たちが輝く場面に立ち会える喜びを、しみじみと味わった１年となりました。学年スタッフ一同感謝申し上げます。春に予定されていたさまざまな行事が中止となり、心を痛めている方もいらっしゃることと思います。３学期は定期考査も実施できませんでしたので、学習面につきましては４月からの授業の中で力を把握し、フォローしていくことになります。

Bon Voyage!

高３学年主任
山根　晶子

今、私の手元にあるのは、中１のときの皆さんの顔写真です。６年前はおでこを出している人と眼鏡をかけている人が多いですね。髪は伸びた人もいれば切った人も。顔も伸びた人がいれば丸くなった人も。机を整理すると他にもいろいろ懐かしいものが出てきて、一人で吹き出したり絶叫したりしています。

思いがけずコロナの襲撃に遇い、皆さんと名残を惜しむ時間がとれなくなってしまったことは本当に悲しいです。2020 年３月 16 日という日が、皆さんの吉祥生としての最後の登校日となってしまいました。この場を借りて、卒業してゆく皆さんに餞の言葉を贈ります。

皆さんがこの吉祥に入学したとき、いろいろな未来を思い描いていたことでしょう。夢と希望に膨らんだ風船がしぼまないよう、あるいはもっと大きく膨らませられるよう、私たち教員は、皆さんの充実した学校生活のために、どんな手助けができるのかを考えてきました。ともすれば、手助けではなくお節介になりがちだったかもしれません。私たちがしてきたことが常に正解だったわけでもないと思います。それでも皆さんは、ときに素直に、ときに反発しながらも、私たちの声かけに応えてくれました。そんな皆さんと一緒にこの学年で過ごせた６年間は、本当に楽しくて、いっ

ぱい笑っていっぱい嬉し涙も流しました。心から感謝しています。それとともに謝らなくてはいけないことが１つ。

「獅子の子落とし」ということわざがあります。敢えて子どもに試練を与えて成長を促すことへの賛否はあるようですが、子どもを自立させるためには、この手法もときには必要だったのではないかと今さらのように反省しています。私には皆さんを千尋の谷に突き落とすことができませんでした。もし谷に落ちたとしても、実際のライオンのお母さんのように皆さんを拾いに行っていたような気がします。吉祥という狭い世界を出て谷に突き落とされたとき、自力で這い上がってこられる力を皆さんにつけてあげられたのかどうか。皆さんは優しいし思いやりもある。でも世間が皆さんに優しいとは限らないし、むしろ優しさが仇になったり、谷に突き落とされてばかりだったりするかもしれません。そんな逆境に耐えられるだけの逞しさを身につけさせられなかったのではと心配しています。しかし、ここまできて今さら突き落としたりすることはありません。もし谷に落ちて傷だらけになったらここへ来てください。優しく薬を塗ってあげます。軟膏を準備して皆さんが遊びに来てくれるのを待っています。皆さんのこれからの人生が、この６年間を上回るほどキラキラ輝くことを祈っています。

【保護者の皆様へ】

お嬢様のご卒業おめでとうございます。この晴れの日を楽しみにされていた保護者の皆様には、卒業式にご参列いただけなかったことを誠に残念に心苦しく思っております。お嬢様方の門出にふさわしい場となりますよう、教員一同心をこめて送り出したいと存じます。６年間のご支援、ご協力に感謝申し上げ、最後のご挨拶とさせていただきます。

表紙・挿し絵

香取　亜美

吉祥女子高等学校 芸術コース卒業後、武蔵野美術大学 工芸工業デザイン科卒業、イラスト制作会社での勤務を経て、2016年よりフリーランスのイラストレーターとして活動。

@ami_katori

吉祥女子中学・高等学校

〒180-0002　東京都武蔵野市吉祥寺東町 4-12-20
TEL：0422（22）8117　FAX：0422（22）9752
〈ホームページ〉https://www.kichijo-joshi.jp/